

第2学年 社会科（地理的分野）学習指導案

日 時	平成29年9月26日（火）5校時
学 級	2年A組 男子17名 女子10名 計27名
場 所	2年A組教室
授業者	教諭 川村 明

1. 単元名 第3章 日本の諸地域（新しい社会地理 東京書籍）
第3節 近畿地方～歴史の中で形作られてきた人々の暮らし

2. 単元について

本単元は、「中学校学習指導要領解説社会編」地理的分野の「2（2）ウの日本の諸地域」のなかで（イ）歴史的背景を中核とした考察として「地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事象を中核として、それを国内外の他地域との結びつきや自然環境などと関連づけ、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景が関わっている事などについて考える」を指導内容としている

本単元では、近畿地方の地域的特色を、産業や文化の歴史的背景に着目して、それを他地域との結びつきなどと関連づけて考察させる。また、地域の地理的事象の形成や特色には、歴史的背景があることをとらえさせる。このようなことを学習することにより、日本の伝統文化の理解を深めそれぞれの地域にある歴史的な価値のあることや、伝統文化の継承に取り組んでいくことの大切さを理解させたい。

3. 生徒の実態

授業への取り組み、課題の提出状況から社会に対する関心は全体としては高いと思われる。活発に意見や質問をする生徒が多く、話し合い活動も積極的に行うことができる。そのことを生かして、話し合い活動では自分の意見を持ち、根拠を明らかにしたり、理由を説明したりする活動を活性化させていきたい。

写真や資料から何をあらわしているかを読み取ることはできるが、その資料がどのような意味がありどのような背景があるかを考察することが苦手である。昨年度のCRTの結果からは社会的事象の意欲・関心・態度は全国を上回っているが、社会的な思考・判断、資料活用の表現は全国を下回っている傾向が見られ、思考の訓練や資料活用の技能を高める工夫をしていかなければならない。そのために、考える視点を明示したり、与える資料を見やすくする工夫が必要である。

4. 単元の目標

- （1）近畿地方の地域的特色を、産業や文化の歴史的背景や開発の歴史に着目して、それを他地域との結びつきなどと関連付けて考察させる。
- （2）地域の地理的事象の形成や特色には、歴史的な背景があることをとらえさせる。

5. 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
<p>①近畿地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、特に伝統的な文化と歴史的背景に関心を持ち、設定した追究テーマを基に地域的特色を意欲的に追究しようとしている。</p> <p>②様々な都市の形成、歴史的な景観や伝統的な文化の継承・保存について、関心を持っている。</p>	<p>①近畿地方の地域的特色を、歴史的背景を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>②近畿地方の様々な都市の特色について、その歴史的背景の違いに着目して考察し、表現している。</p>	<p>①近畿地方の地域的特色に関する各種の地図や統計、写真などの資料を収集している。</p> <p>②収集した資料から、近畿地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>①近畿地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかにとらえている。</p> <p>②近畿地方について、歴史的背景を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。</p>

6. 単元の指導計画（5時間扱い）

	学 習 活 動	評価規準
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の自然環境の特色を、中国・四国地方と同様、三つの地域に分けて理解する。 近畿地方における自然災害と、自然災害への備えについて関心を持つ。 	ア① エ①
第2時	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の大都市やそこでの産業について大まかにとらえるとともに、その歴史的背景に着目する。 これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。 <p>近畿地方追求テーマ 「近畿地方で、現在見られる特色ある都市や産業が発展してきたのはなぜか」</p>	ア② エ②
第3時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に考える。 	ウ②
第4時	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市の商業都市としての特色を、その地名に着目して、その歴史的背景を通して理解する。 大阪市の発展に、私鉄が大きな役割を果たしてきたことを、地図を使って理解する。 	ア② イ②

第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市などの都市の発展や、開発とその問題点について、地図や写真などを使ってとらえる。 ・近畿地方の様々な都市の特色を、その歴史的背景から比較考察して理解する。 	ウ① イ①
	近畿地方追求テーマ 「近畿地方で、現在見られる特色ある都市や産業が発展してきたのはなぜか」のまとめを行う	

6 本時の指導

(1) 本時の目標

京都について伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という観点から多面的にとらえる。

(2) 本研究とのかかわり

社会科では本校の言語活動の4つの柱のうち2【根拠を明らかにしたり、理由を説明できる活動】3【生徒同士（ペア、グループなどの活動）で、自分自身の考えを持ってかかわりあい、交流しながら表現する活動】を重視している。

そのために社会科としての目標として「コーチングの技法を取り入れた指導法の研究」に取り組んでいる。コーチの語源は大切なものやお客様を目的地に連れて行く馬車である。つまり、授業で言えば学習目標達成のため、達成したという状態に生徒を導いていくことである。コーチングの大切な技法として「5W1H」がある。この技法を用いて生徒の考えを引き出し、自分で学習目標達成できるように努力する。これに至る過程が言語活動そのものであると考える。その際にティーチングとコーチングの使い分けが必要である。アクティブラーニングが大切だと言っても、すべてを生徒が調べるのではなく教えるべきところは教え、基本事項は反復復習するという場面の変化が必要である。授業では①前時の基本事項の確認 ②基本的事項の説明 ③基本用語の確認と音読を行い、ティーチングも重視している。

また、ほとんどの時間話し合い活動を二問行い生徒同士でも【5W1H】が話し合い活動で出るように導く。話し合い活動が活発に迅速にできるように、年間を通して4人一組のグループで授業を進めている。

家庭学習についてはワークをこまめに出し、授業進度とタイミングよく取り組めるようにする。そのために授業の冒頭に1分で点検する。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	評価の方法
資料活用の技能	・伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に考える。	発表内容 ワークシートの記述内容 振り返りシートの記述内容

(4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ●評価
導入 10分	1 家庭学習の確認 2 前時の復習 3 学習課題の導入 (1) 【発問】「日本の歴史上で関東と近畿では首都であった期間はどちらが長いか」 (2) 京都と花巻のコンビニの写真を見せる 4 学習課題の設定	○指導上の留意点 ●評価 ○素早く点検する。 ○5W1Hをできるだけ多く使う ●意欲的に復習問題で発言しているか ○幕府、政権を思い出し歴史の復習をさせる
花巻と京都のコンビニの外観はなぜ違うのか		
展開 35分	5 基本事項の確認 学習シートの問題を自力で調べて記入し、完成後音読する。 6 学習課題の追求 (1) 【発問】「花巻のコンビニと京都のコンビニはなぜ違うか説明し、その理由を答えなさい」 【発表】複数の班に発表させる (2) 「京都と東京の航空写真で何が違いますか」 【発表】複数の班に発表させる (3) 【発問】「歴史的な町並みを守るため京都はどのようなことをしているかを答えなさい」 【発表】複数の班に発表させる	○わからないところはグループで協力させる。 ●班で協力して作業しているか ○教科書を閉じさせる ○自力で3分、グループで5分で考えさせる。 ○理由を考える活動を促すために5W1Hで促す ●5W1Hをどれぐらい使っているか ○条例という言葉の説明する ○条例の中のあてはまる言葉を考えさせる
終末 5分	7 活動の振り返り キーワード「調和」について説明する。 8 次時予告と家庭学習について	●振り返りシートを使ってどれぐらい理解しているか確かめる ○本時の学習と対応するワークのページを家庭学習として提示する